第１回　エリトリア入国

修士論文を文字通り昼夜問わず執筆していた平成１５年（２００３年）夏、修士課程修了後のエリトリア行きが決定しました。この機会は、通っていた大学院の非常勤講師が見つけてくれたものでした。「エリトリア」は「アフリカの角」と呼ばれる地域にあります。これらの地域にはエチオピア、ソマリア、スーダンがあり、アフリカ大陸の「角」のような形をしています。ちなみに紅海をはさんでイエメン、サウジアラビアにも隣接しています。

アフリカは多くの日本人にとって、“遠いところ”だと思います。一般的に、いわゆる西洋的「文明」が普及していない場所という印象が強いと思います。もちろん地域内には大きな違いがあります。例えば北アフリカ（エジプト、モロッコ、チュニジアなど）といえば古代遺跡やリゾート地での観光というイメージが強くなったりしていますが、それより南にある国々は概して、大自然、野性動物、広大で乾いた土地など、「秘境」または「乾燥した未開の地」というイメージと結び付けられる傾向が強いのではないでしょうか。実際これらの諸国は国際連合や世界銀行による統計上、最も貧困度が高い地域になっています。ここでいう「貧困度」とは、人々の収入、平均寿命、識字率の指数を合算したものです。２００３年の国連開発計画発行「人間開発報告-Human Development Report 2003-」によると、この貧困度指数が手に入る世界１７５カ国のうちの「最貧国」のほとんどがアフリカ諸国です。これらの地域の一人あたりの平均収入は１年で 1,831 ドル、寿命は 46.5 歳、識字率は 62.4%です。日本はこの 175 か国中９位で、平均収入は 25,130 ドル、寿命は 81.3 歳、識字率はほぼ 100%です。（ちなみに上位５カ国はノルウェー、アイスランド、スウェーデン、オーストラリア、オランダ（全て欧州）で、下位５カ国はブルンジ、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、シエラレオネ（全てアフリカ）です）。もちろんこの貧困度指数の定義に関しては議論の余地はありますが、いずれにしてもアフリカ諸国の多くは、政治、社会、経済的にも独裁、内戦や国境紛争、経済危機などをはじめとする様々な問題を抱えているのです。エリトリアはこの意味でまさに、典型的なアフリカの国家といえます（エリトリアは全 175 か国中 155 位です）。

さて、僕がエリトリアに旅立ったのは昨年の 11 月、イギリスのヒースロー空港からでした。この空港は１日に扱う旅客数とその国籍数が世界最大規模だけあって、さまざまな人種の人々がいろいろな服を着てたくさんの国の飛行機で到着または出発したり、出迎えや見送りに来たりしています。僕の利用したのはエジプト航空、カイロ経由のアスマラ（エリトリアの首都）行きです。出発ロビーはちょっとしたイスラム世界でした。ちょうど断食期間中だったこともあってか、白いクルタと呼ばれる白い服を着た男性や、髪の毛をすっぽり布で覆い隠した女性のイスラム教徒たちがそこここで祈りをささげているのです。飛行機に乗ってからも、シートベルトサインが消えるとすぐに自分の席のテーブルを下ろしてその上に頭をつけながらの祈りが始まります。どうやら彼らはカイロ経由でサウジアラビアにあるイスラム教の聖地メッカに巡礼するようでした。

飛行機は順調に離陸して飛行を続け、１時間程経ちました。イスラム教徒たちは時々思い出したよう

に祈り、それ以外の時間は聖典コーランを読みふけっています。時間は更に過ぎ、2－3時間ほど経ちます。だんだんと空腹感が強まるのですが、食事はおろかスナックや飲み物さえも出されません。かなり空腹になってきた頃、1日の断食時間の終わる日没までは飲食物は一切出されないということを知ります。コーランによると、旅行中はイスラム教徒でさえも断食義務は無いはずですが、非イスラム教徒の旅客たちもちょっと断食を経験することになりました。日沈が機内放送で知らされ、真っ先に動き出したのはもちろんイスラム教徒。手荷物の中に入れていた食べ物や飲み物を一斉に出し、猛烈な勢いで食べ始めました。たくさん持っている人は機内中のムスリム教徒たちに配っていました。食事を終えると再び祈りとコーラン。そんな彼らを横目にくつろいでいると、カイロに到着しました。カイロの空港はまさにイスラム世界。トイレでは数え切れないイスラム教徒たちが祈りの前に手足を洗っています。

エリトリアの首都アスマラ行きの飛行機は真夜中に出発でした。飛行機に乗り込み、食事を終えてしばらくすると着陸しました。ところが、空港のはずが辺りは真っ暗。砂漠の中に空港があるのかと勝手に想像してしまったほどです。近くには国連の飛行機がたった1機駐機され、国連の鮮やかな青いベレー帽をかぶった兵士たちが警備中です。空港にいるエリトリア人の警備兵は古めかしいライフル銃を持っています。午前3時過ぎ。入国審査の後、空港唯一のターンテーブルから出てくる荷物を持って外に出ようとすると、税関で申請するものは無いかという質問。大量の現金も酒類もタバコも、思い当たるものはまったく無いと言うと、コンピュータ類はどうかと聞いてきます。ノート型パソコンを持っていたのでそう言うと、なんと課税対象になるとのこと。購入後5年近く経ったノート型パソコンです。そんな訳のわからない話は無いと思ったのですが、近くにいる人たちはパソコンにつなぐような小さなスピーカーのために何十ドルも払っています。それにしても変な話なので、間違いだろうと思ってしばらく待っていると、心配して空港の外から出迎えに来てくれていた同僚が空港内に入ってきてくれました。彼曰く、電化製品はエリトリア国内で高く転売される可能性があるので持ち込む前に製造・製品番号などを全て登録しなければならないということです。少し安心して言われるままに登録すると、係員が「夜が明けないと正式に登録できないから今夜はパソコンを預かる。これは法律で決まっている」と言うのです。しぶとく交渉してもどうにもならず、しょうがなくパソコンを預け、思っていたよりも道路や街灯などが整備された道路を同僚の車に乗って、深夜のアスマラ市街に向かったのです。

エリトリア情報（外務省のページ）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eritrea/index.html